

ニューズレター「非文字資料研究」 30号刊行にあたり

非文字資料研究センター センター長 田上 繁



非文字資料研究センターのニューズレター「非文字資料研究」第30号をお届けいたします。節目の30号（本センターでは20号から）を刊行するにあたり、これまでご理解、ご支援をいただきました学内外の多くの皆様に改めてお礼を申し上げます。

ご承知のように、非文字資料研究センターは、2003年の文部科学省による21世紀COEプログラムに採択された「人類文化研究のための非文字資料の体系化」の後継組織として2008年に発足いたしました。このCOEプログラムは、文字に表せない人間の営為を資料化して分析する「非文字資料」研究の確立と、グローバルに活躍する若手研究者の育成という二つの大きな目標を立てて推進されました。そのため、研究対象とした図像、身体技法、環境・景観の三分野の研究を担う研究者の組織化、海外提携機関との若手研究者の派遣・招聘制度、PD・RA制度、奨励研究制度の導入などといった斬新な内容がプログラムに盛り込まれていました。

非文字資料研究センターでは、そのプログラムの内容を受け継ぎ、すでに第一期（2008～2010）の共同研究プロジェクトを終え、現在は第二期（2011～2013）の最終年度にあたり、研究成果の取りまとめの段階に入っています。5班7課題の共同研究プロジェクトが進行中であり、課題の中には「『ヨーロッパ近代生活絵引』編纂」「東アジアの租界とメディア空間」「水辺の生活環境史」など特徴ある研究も含まれています。世界的にも“HIMOJI”の名称も認知度を増し、新たな領域を開拓する「非文字資料」研究として確実に発展を遂げています。

一方、若手研究者の育成については、若手研究者の派遣・招聘制度では北京師範大学、フランス国立高等研究院、ハイデルベルク大学など、中国、韓国、フランス、ドイツ、ブラジル、カナダの9研究機関と提携を結び、相互に年間一人ずつの若手研究者の派遣を行っています。若手研究者の中には、派遣・招聘の研究成果を「ニューズレター」や「年報」に掲載するとともに、博士論文にも反映させて学位を取得した者もいます。この派遣制度に関しては、期間の延長とともに、従来の歴史民俗資料科学研究科と外国語学研究科中国言語文化専攻に加え、2012年度からは法学・経済学・工学研究科および外国語学研究科欧米言語文化専攻もその対象とし、「非文字資料」研究を目指す多くの若手研究者が海外で研究できる条件を整えました。また、研究費の支援を目的とする「奨励研究」でも新たに二つの研究科を加え、「非文字資料」研究者の育成と研究の向上を図っています。これらの制度の採択者のなかから、学位取得者や海外の研究職に就く研究者も現れるなど、若手研究者育成のプログラムは機能していると思われま。本センターの役割は、将来にわたってこのプログラムを完成させるところにあり、研究者だけで構成される研究所とは若干性格を異にしているといえます。

今後は、若手研究者の交流だけにとどまらず、研究者相互による共同研究の実施や国際シンポジウムなどの開催を通して研究者同士の学术交流を一層促進していく必要があります。今年3月に台湾の国立中央研究所と国立図書館を訪問する機会を得ましたが、膨大な「非文字資料」の収集やデータベース化の進展度と、「非文字資料」研究の可能性の大きさには目を見張るものがありました。「ニューズレター」の誌面をさらに充実させるためにも、「非文字資料」研究の先駆者としてこうした海外との協力関係を強めながら、研究の深化と若手研究者の育成に尽力していく所存です。